

カーフリーデー 2005 の取り組みを紹介します！

2005年11月



2005年9月23日。晴天にも恵まれ、日本においてもカーフリーデーキャンペーンが5都市で行われました。1997年にフランスの1地方都市で始まったこの取り組みは、今や1400都市以上が参加する世界的なプロジェクトに発展しています。

街の中心部の一定地区もしくは一部道路をマイカーの交通規制を行い、歩行者や自転車のためのいわば歩行者天国の1日を創り出します。マイカーに頼らなくても、地域の人とその移動を制約されることなしに都市内を楽しめるということを実感してもらうために、バスや電車の増便、運賃の無料化や格安料金にするなどの使いやすいサービスの提供を行います。更に、郊外部への駐車場の設置や中心街への送迎バスの導入、自転車の貸し出しを行うなど、普段とは違った移動方法を推進します。

「車と都市」「車と地球環境」「車と都市文化」を市民一人一人が体験して、車のあり方を見直していこうというプロジェクトで、ヨーロッパ委員会が主催し、日本担当のコーディネーターがその普及、支援活動を行っています。

日本では、今年横浜市において、車両交通止めを伴うカーフリーデーの実施となりました。道路を歩行者に開放しキャンペーンを行ったのは、横浜市が初めてです。市民団体が実施主体となり、道路の交通止めに伴う様々な課題を乗り越えての実施となりました。

横浜市以外にも、今年キャンペーンを行った国立市、松本市、名古屋市、姫路市でも歩行者の賑わいを優先した中心街づくりを目指して様々なイベントが行われました。

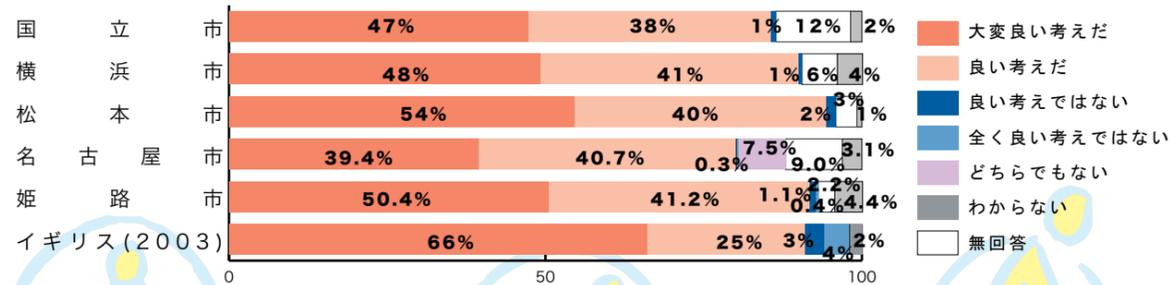
また、今年はイベント中に5都市の主催団体より協力を得ながら、参加者にアンケート調査を行いました。カーフリーデーへの意向や今後の可能性についてインタビュー形式でアンケートしたところ、たくさんの方から意見を聞くことができました。

カーフリーデーアンケート

各都市共通して、80%以上の市民が、カーフリーデーは「良い」考えと支持しています。また、街の中での車のあり方や、人を中心とした賑わいづくりにたくさんの方が問題意識を持っていることも確認できました。こういった一人一人の意識が、地球環境問題や都市内の交通問題、中心市街地の停滞などの改善につながるように、取り組みを続けていかなければならないと考えます。

歩行者を優先とした都市空間づくりや地球環境問題の対応先進都市であるヨーロッパでは、自動車に関する市民の問題意識は高くなっています。今回実施した5都市でも自動車交通への問題意識が大変高く、意識の傾向にヨーロッパ市民と大きな差が見られないことから、日本でもカーフリーデーの実施をきっかけとしてさまざまな施策展開の可能性の余地もあると考えられそうです。

質問：「カーフリーデー "車をおいてまちへ出よう！"」についてみなさんはどうお考えですか？



2005年9月23日 来街者アンケート調査
回答数：国立市110、横浜市177、松本市123、名古屋市322、姫路市274

2005カーフリーデーの取り組み都市

- ヨーロッパカーフリーデーへの賛同都市として活動：国立市（市民団体）、横浜市（市民団体）、松本市（行政協力）、名古屋市（行政中心）、姫路市（行政中心）
- ヨーロッパカーフリーデーへの参加を目指して活動：さいたま市（行政中心）



カーフリーデーロゴ入りTシャツとシャープペンシルをつくりました！

横浜市

カーフリーデー参加2年目の今年は、約1週間にわたりカーフリーデーについての展示・アビールを行い、ヨーロッパモビリティウィークへの賛同都市ともなりました。

9月23日は、日本大通りを車両交通止めとし、道路を歩行者に開放。日本でカーフリーデーとしては初の試みとなり、ゆったりとした時間の中で、普段は乗ることのできない自転車や車いす試乗で実際に道路空間を体験したり、街歩きやパレード、サイクリング会場となり、参加者は普段とは違う都市空間を楽しみました。

もう一つの会場横浜公園内では、カーフリーデーに関するの展示や大道芸、フリーマーケット、燃料電池車やカーシェアリングの電気自動車の展示、カフェなど様々な団体がカーフリーデーの主旨に賛同し、イベントを行いました。

25日には、今後の横浜カーフリーデーについてのフォーラムも開催され、多方面からのキャンペーン活動となりました。（実施団体：市民団体 横浜カーフリーデー実行委員会）



キャンペーンちらし



日本大通りでの警備



歩行者に開放された道路を楽しむ様子



歩行者に開放された道路を使って街歩き



公園内の様々なイベント

たくさんの方がカーフリーデーを楽しみました！

● 国立市 ●

● 名古屋市 ●



キャンペーンちらし

国立市は、人口7万人の東京郊外都市で、鉄道網の利便性も高く、自転車利用者が多い都市です。学校や大学が多く立地し学生も多く、文教都市としての魅力も持っています。

今年から、市民団体まちづくり∞自転車倶楽部が中心となり、カーフリーデーに関する活動を始めました。歩行者や自転車を中心とした環境づくりに市民自らが動き出しています。

9月23日は、大学通りのポケットパークにてカーフリーデーに関する展示とアンケート調査を行いました。通りがかりに足を止め、展示に目をやったりする人との交流などとなりましたが、23日以外にも、様々なイベントでその広報活動を行い、広くアピールを行っています。

(実施団体：まちづくり∞自転車倶楽部
くにとちまちづくり市民連絡会)



ポケットパークでのアンケートの様子



ポケットパークは展示物が充実



展示パネル



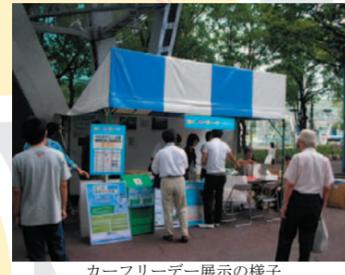
キャンペーンちらし

昨年に引き続き、今年も幅広くキャンペーン活動を行いました。名古屋市は人口200万人の愛知県の中心都市です。日本最大の自動車会社の本社が立地していることもあり、自動車は交通モードとして大きな影響を持っていますが、名古屋市ではノーマーカーデーの実施を積極的に行っており、市営地下鉄や市営バスの利便性向上を図っています。

今年の9月23日は、地下鉄全線・バス全線に使える「なごやカーフリーデー切符」が発売され、1日乗車券として、ヴェロタクシーやテレビ塔入場料金割引などの併用サービスも提供しました。

久屋大通りテレビ塔下広場会場では、カーフリーデーの展示やヴェロタクシーの試乗などが行われました。

(実施団体：なごやカーフリーデー実行委員会
事務局：名古屋市)



カーフリーデー展示の様子



ヴェロタクシー試乗



アンケート記入の様子

「なごやカーフリーデーきっぷ」

● 松本市 ●



キャンペーンちらし

昨年に引き続き、今年も幅広くキャンペーン活動を行いました。松本市は、人口20万人の都市で長野県の中心部に位置します。人と環境に優しいまちづくりを推進し、城下町として環境型観光や交通渋滞緩和への取り組みも行っています。

今年、カーフリーデーの一週間前に自動車利用者への啓発活動としてチラシや物品を配布するなど、モビリティウィークへの参加ともなりました。更に、応募企業に対し、通勤時に車を使わない「ノーマーカーデー」の実施も行いました。

9月23日は、松本カーフリーデー（第3回自転車デー）として、中心街の花時計公園内で様々なイベントを実施しました。カーフリーデーの展示や、ヴェロタクシーの試乗体験、大道芸やフリーマーケット、街の資産を再発見する目的で、井戸せせらぎめぐりを行うなど幅広いキャンペーン活動となりました。

(実施団体：松本市ノーマーカーデー推進市民会議)



アルパコンサートの様子 (9月23日)



カーフリーデーパネル展示の様子 (9月23日)



モビリティウィークでの啓発活動 (9月16日)



キャンペーンちらし

姫路市は人口48万人の中核都市で新幹線など鉄道網の結節点となっています。城下町として栄え、世界文化遺産である姫路城などの観光要素も大きい都市です。

今年初めてカーフリーデーに関するキャンペーンを行いました。姫路市では、大手前通りが50周年ということで、記念イベントの一つとしての実施となりました。姫路城周辺の大手前公園内では、メインイベントとして城下町の再発見する目的でウォークラリーを行い、大手前公園から約2時間8kmの周遊コースに約253名が参加しました。また周辺の公園では、ヴェロタクシーや人力車の試乗なども行われ、たくさんの方が普段とは違った乗り物で街の中を楽しみました。

(実施団体：姫路市)



大手前公園からウォークラリー開始



ヴェロタクシー試乗の様子



公園内では自転車のアトラクションも

● 姫路市 ●

お問い合わせはヨーロッパカーフリーデー日本担当オフィスまで。
ヨーロッパカーフリーデー日本担当コーディネーター
(株)アトリエUDI都市設計研究所 望月真一
東京都千代田区六番町6-20-304 〒102-0085
tel.03-3234-1765/fax.03-3234-1748
cfjapan@cfjapan.org
http://www.cfjapan.org